

二〇二二年一月十五日

追伸に雪の深さを知らず文

素 秀

年賀状喪中の吾に寅吠ゆる

なつき

マスクして福娘みな同じ顔

凡 士

湯治場の炉辺を囲める国訛り

凡 士

遠嶺に茜広ごる初景色

はく子

生かされて初風呂に酔ふ卒寿かな

宏 虎

風花の触れては消ゆる辻地藏

うつぎ

亡夫眠る西の方より風花す

む べ

老妻へ感謝の御慶申しけり

宏 虎

息白くみな連れ立ちて産土神へ

うつぎ

法螺貝に続く僧列淑気満つ

はく子

句敵ら今日は仲良く女正月

うつぎ

御神籤を冬芽の枝に結びけり

素 秀

温むる思ひあれこれ初湯殿

わかば

修正会の法鼓の音堂を震はしむ

はく子

初暦明るき日々を記したく

わかば

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年一月一六日

羽子板をラケットに替へ負けまじく

よう子